

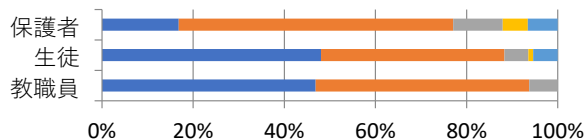
令和5年度 学校評価

■ そう思う
 ■ どちらかといえば、そう思う
 ■ どちらかといえば、そう思わない
 ■ そう思わない
 ■ わからない

①いのちを大切にできる心の教育の充実といじめや不登校への細やかな対応

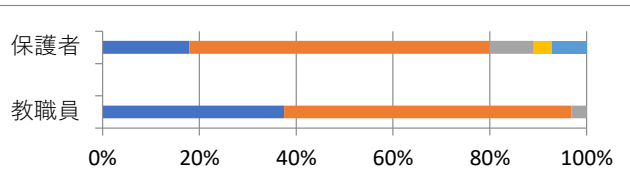
1 一人一人の児童生徒の尊重

学校は、一人一人の子どもを大切にされた指導や対応ができていますか。



2 道徳・心の教育の充実

学校は、豊かな人間性を育む心の充実に努めていると思いますか。（礼儀、生命尊重、思いやりなど）

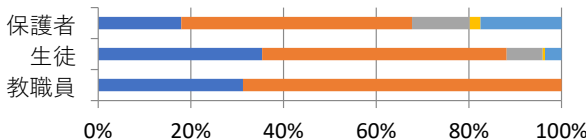


考察 前年との比較で、項目1は保護者が3%、生徒が12%肯定的な意見が増加した。また、項目2は保護者は4%、教職員が7%肯定的な意見が増加した。KIZUNA・心のアンケート等で実態把握に努め、道徳の授業改善、生徒に寄り添った言葉かけや家庭訪問等を今後も継続することで、信頼をさらに高めていくことが必要である。

②確かな学力の向上と社会の変化に対応した教育の推進

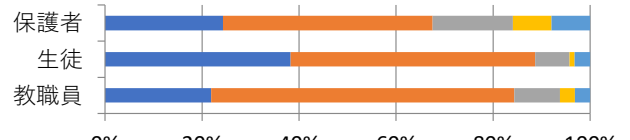
3 授業力向上

先生方は、わかる授業、楽しい授業づくりに努めていると思いますか。



4 タブレット端末活用

子どもは、タブレット端末を活用して学習していると思いますか。

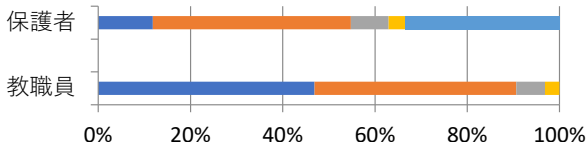


考察 前年との比較で、項目3は保護者と教職員が2%、生徒が4%肯定的な意見が増加した。項目4の肯定的な意見は、保護者が4%減だが、生徒が8%、教職員は7%増加した。「錦タイム」によるソーシャルスキルトレーニングの定着、タブレット使用に関する課題の改善等が見られているので、学びをアウトプットする機会を総合的な学習の時間等で増やしていくことが必要である。

③教員が子どもと向き合うための体制の整備

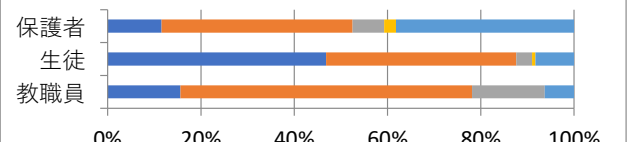
5 学校の支援体制

学校は、支援を必要とする子どもの教育について、共通理解を図りながら取り組んでいると思いますか。



6 共生社会を担う人材の育成

学校が行っている「交流及び共同学習」等は、相互理解につながっていると思いますか。



考察 前年との比較で、項目5は保護者が3%肯定的な意見が増加したが、教職員は5%減少した。また、項目6は生徒が7%肯定的な意見が増加したが、保護者は同じ、教職員は7%減少した。生徒一人一人と対話する機会を確保し、関係機関とも連携した対応を継続する必要がある。地域の花壇整備活動等にも参加する生徒もあり、地域への貢献意識も高まっていると考えられる。

④ 学習に集中できる教育環境づくりと安全対策の推進

7 安全と事故防止	8 家庭や地域との連携協力
学校は、子どもの事故防止などの安全教育に取り組んでいると思いますか。	学校は、家庭や地域と連携・協力しながら教育活動を進めていると思いますか。
<p>考察 前年との比較で、項目7は保護者が2%、教職員が3%、肯定的な意見が減少したが、生徒は15%上昇した。また、項目8は保護者が2%、職員が1%肯定的な意見が増加した。校区内は交通量が多く、地域から事故防止に関する指摘を受けることが多い。その都度生徒へ注意喚起を行い、走歩会等の学校行事ではPTAと連携して事故防止に努めたことで、生徒の安全意識向上にもつながっている。</p>	

⑤ 学校独自の取組

9 挨拶	10 掃除
自分から進んで挨拶をしていると思いますか。	自分から進んで掃除をしていると思いますか。
<p>考察 項目9、10は本年度新たに設けた評価項目であるので前年との比較はできないが、年度当初の全校集会以降、生徒指導部から機会あるごとに「あ（挨拶）そ（掃除）ふ（服装）じ（時間）」を合言葉に生徒への呼びかけを行った。挨拶はTPOを意識したものに高め、掃除は無言掃除が定着しているので、生徒の活動を評価しながら継続した取組にしていく必要がある。</p>	

⑤ 学校独自の取組

11 服装	12 時間
学校生活にふさわしい身なりで生活していると思いますか。	時間を意識して生活していると思いますか。
<p>考察 項目11、12も本年度新たに設けた評価項目であるので前年との比較はできないが、年度当初の全校集会以降、生徒指導部から機会あるごとに「あ（挨拶）そ（掃除）ふ（服装）じ（時間）」を合言葉に生徒への呼びかけを行った。「創立以来チャイムのない学校」を誇りとし、生徒が校訓を大切に、自己肯定感を高めていけるよう、教職員と目標を共有して取り組む必要がある。</p>	

来年度の具体的な取組について

①いのちを大切にすることの心の教育の充実といじめや不登校への細やかな対応のために

- ・生徒指導部会、学年主任会、校内支援委員会、不登校対策委員会での実態把握と具体性のある対応策を迅速に対応し、保護者及びSC・SSW、関係諸機関との連携を密にして全職員で対応に全力を尽くす。
- ・「錦タイム」を核としたソーシャルスキルトレーニングを継続し、より良い人間関係づくりを全職員で取り組む。

②確かな学力の向上と社会の変化に対応した教育の推進のために

- ・学びのアウトプットをする機会を保障し、タブレットを活用した授業改善を行い、校内研修をととして個別最適化された学習活動を追求する。
- ・生徒の主体的な学習活動を促す指導の工夫を行い、生徒が学びを実感できる授業の工夫に努める。

③教員が子どもと向き合うための体制の整備のために

- ・家庭訪問や教育相談、毎月のKIZUNAアンケート等で、生徒や保護者の思いを傾聴し、職員会議、学年会等で情報を共有する。
- ・校内支援委員会を月二回開催し、特別支援教育に学校総体であったり、具体的な不登校対策、生徒指導に迅速に対応する。

④学習に集中できる教育環境づくりと安全対策の推進のために

- ・生徒一人一人が生き生きと活動できる教室設営、校内掲示をさらに充実させる。
- ・生徒が危険を予知し、自ら適切に行動できるための安全教育をさらに推進する。

学校関係者評価

①いのちを大切にすることの心の教育の充実といじめや不登校への細やかな対応のために

- ・生徒の肯定的な評価が12%も増加している背景には、先生方の細やかなご対応が届いているものと想像できる。しかし、若干数は対応が足りないと思っている生徒もいるので、引き続き見守りを強化していただけたらと思う。
- ・担任、副担、養護、管理職他、先生方が連絡を取り合い良き指導が成されていると思われる。
- ・素晴らしい評価結果である。「1」の生徒の肯定回答が上昇しているのはうれしい。先生方の「どちらかといえばそう思わない」の回答は、反省を込めての回答であってほしい。生徒の「そう思わない」の回答はゼロであってほしい。
- ・生徒たちが熱心に授業を受けられている姿を見て、校長先生を中心とした学校の運営がよくされていると思いました。気になることは不登校の生徒のことで、担任の先生だけでは対応が難しい。ただ、OBの先生方や臨床心理士の方の力を借りるなど、人件費などがかかるため、中期の計画で取り組まれては如何かと思う。特別支援教育の必要なお子様が集団生活の中で困り感があると思うので、対応をお願いしたい。

②確かな学力の向上と社会の変化に対応した教育の推進のために

- ・先生方、生徒共に充実している様子がうかがえる。大変素晴らしいことだと思う。
- ・コロナの影響もあるが、良き教育が成されているようだ。各自に割り当てられたタブレットも活用の場面がどの授業でも見られた。「3」は、保護者の肯定的な意見は以前から低い傾向にあった。「4」は、生徒の約90%が肯定的なのは素晴らしい。今後はより効果的な活用を職員で議論していくことが大切である。
- ・「3」の先生方が100%肯定回答であることはとても頼りになる結果で頼もしい。「4」はタブレット端末活用で課題の改善が見られたとの事、真摯に取り組んでおられる結果だと思う。
- ・学習内容が理解できないのが積み重なり不登校になるというケースもある。放課後などOBの先生方の協力を得ることも必要である。

③教員が子どもと向き合うための体制の整備のために

- ・生徒達は向上していると答えており、昨年と比べてもかなり数値が上がっているため、工夫された様子がうかがえる。
- ・方向性が一致することが大切かと思われる。堅苦しくない会議も時々あった方が良いかもしれない。
- ・保護者と対話不足なのか、関心がないのか、伝えることは難しい。生徒に伝わっているのはよい。
- ・学校の支援体制を保護者の30%がわからないと答えているから、広報活動も必要ではないか。交流及び共同学習の具体的な取組をわかってもらう必要がある。
- ・先生が自分の個性を出し、自分の体験談などを話されて生徒が先生を好きになることが一つのポイントかと思う。思春期の生徒たちからすれば先生方は自分の目指す大人像だと思う。

④学習に集中できる教育環境づくりと安全対策の推進のために

- ・大人の視点では厳しい評価があったのかもしれない。生徒達は安全に過ごせていると感じている様子がうかがえる。
- ・冷暖房が完備され、窓の開閉がされない分、集中できているようだ。先生方の指導力も高いように思われる。
- ・健軍川に沿った通学路での苦情は以前から多い。歩道の整備要望は、道路幅の制限のため実現しなかった。

「定評は地域との連携強化は、コロナの影響もあるが考えられる。OTAと連携した行事を考えるための取組が期待される。

- ・「家庭や地域との連携協力」は、コロナの影響もあると考えられる。PIAと連携した行事を考えるなどの取組が期待される。
- ・学校の取組や先生方のやっておられることが、しっかり生徒に伝わっている表れだと感じる。
- ・だれでも自由に校内に入れることは危険な要因だと思う。

⑤学校独自の取組について

- ・新たに設けられた4項目は日常的な立ち振る舞いを改めて意識させるための項目だと感じた。挨拶についてはまだまだですが、周りの大人も手本となれるよう意識させられるし、今後が大変楽しみである。
- ・学級・学校便りが多く出され「転ばぬ先の杖」的な指導ができています。帰りの会等で時間を割いて読む時間が取れたらよい。
- ・「9挨拶、10掃除」は、教職員の「そう思わない」は保護者、生徒の2倍以上のずれがある。「12時間」は錦ヶ丘中の伝統でもあり、生徒一人一人の自覚のもとで成り立っていることを確認させることが必要である。
- ・「11服装」の「ふさわしい身なり」とはどのようなものを指しているのか。生徒と教職員のどこにギャップが生まれているのか、目指す姿が共有できていないのであろうか。
- ・アンケートの回収率はどのくらいなのか。
- ・思春期の感性の高い時期にこそ本物の芸術に触れて経験することが大切だと思う。芸術の持つ素晴らしさを感じ感動することが、生きる力に繋がっていくと思う。プラスバンドクラブの定期演奏会に出ることができ大変感動した。学校評議員にも行事のご案内を頂ければより学校の様子が理解できると思う。